

# 梨産地の収量安定化を目指して

## ―白紋羽病防除対策確立に向けた取組―

### 1 活動のねらい

梨産地の生産力を維持していくために、計画的な改植を進め収量の安定化を図ることが重要です。しかし、八千代市では白紋羽病の拡大が改植に伴う早期成園化の妨げとなっています。そこで、現地での白紋羽病防除対策の確立に向け活動を展開しました。

### 2 課題の背景

千葉地域では、都市近郊の立地を活かした直売主体の梨の栽培が盛んであり、八千代市では後継者も比較的多く就農しています。しかし、古い産地で連作が続いたことなどから白紋羽病による被害が増えており、防除対策が収量の安定化に向けた課題となっています。また、近年では10年程度の若木の枯死が発生し生産者の意欲を減退させています。

そこで、現地での白紋羽病防除対策確立に向けた活動に取り組みました。

### 3 普及活動の経過・結果

#### (1) 活動の経過

##### ア 白紋羽病簡易診断方法の実証と普及

白紋羽病防除対策としては農薬の土壌灌注や温水処理※があり、早期に実施することで効果が期待できます。しかし、発生初期を見極めるのは難しいため、生産者が自らできる簡易診断方法「枝挿入法」について現場実証を行いました。また、講習会等で実演も行いながら診断方法の普及を図りました。

※温水処理…樹の地表面に温水を点滴することで病原菌を殺菌する方法

##### イ 白紋羽病防除対策の検討と導入支援

現状で唯一の治療技術である温水処理について生産者から処理機の導入要望があったことから、関係機関と連携して事業の活用による導入を支援しました。また、現地での導入事例が県内に無く情報が少ないことから、作業体系や被害程度別の治療効果の調査や茨城県の組織で取り組む先進事例視察を行い、組織での運用方法等について検討しました。

また、高額な温水処理機を使用しない防除方法として県農林総研が開発中のエタノール土壌還元消毒の試験を八千代市梨業組合と共同で実施し、経過を調査しました。

そして、現状で行える防除方法について整理し、何らかの対策を行っていく重要性を生産者になげかけました。

## (2) 活動の結果

### ア 診断及び防除方法の周知と課題の整理

簡易診断法「枝挿入法」の講習会や総会等での情報提供により、生産者が診断方法を理解し、実際に行うようになりました。枝挿入法は温水処理機による白紋羽病防除に必要な診断技術であり、処理機導入に際して活用されることになりました。

また、温水処理やエタノール土壌還元消毒といった防除方法についても、現地試験や先進事例の視察により、生産者の理解が進みました。さらに、作業体系等についても調査することにより、それぞれの防除方法のメリットや課題を整理することができました。

### イ 生産者の防除意識の向上

白紋羽病が圃場で拡大しているにもかかわらず対策をとっていない生産者も、農薬の灌注処理を含め何らかの防除を行うようになりました。また、温水処理やエタノール還元土壌消毒などの新しい技術に関心を持ち、個々の現状に合った防除方法を検討するようになりました。

### ウ 温水処理機の導入

高価で、かつ技術的なフォローが必要であるため、導入のハードルが高かった温水処理機ですが、補助事業を活用し、八千代市において県内で初めて導入が実現しました。



温水処理機導入先進地の視察



枝挿入法による白紋羽病簡易診断

## 4 今後の課題

温水処理機はこれから本格稼働となります。より効果を期待できる使用方法についてさらなる技術支援が必要になります。エタノール土壌還元消毒については継続した農林総研との連携による現地実証が必要です。

さらに防除範囲外からの菌侵入による再感染を抑えるため、土壌の白紋羽病菌抑止性を高める技術の提供が求められます。

## 5 担当 八千代グループ

## 6 協力機関 農林総合研究センター、八千代市、JA八千代市